

渡辺浩先生が 2025 年度の文化功労者に選出されました

このたび、本学名誉教授の渡辺浩先生が、日本政治思想史研究における多大の功績により、2025 年度の文化功労者に選出されました。

渡辺先生は、1969 年に東京大学法学部を卒業されたのち、本学法学部助手、助教授を経て、1983 年に教授に昇任されました。丸山眞男、福田歓一両教授の政治思想史研究を批判的に継承しつつ、江戸から明治にかけての政治思想史の流れを大胆に描き直す、画期的な研究業績を積み重ねてこられたことが、栄典授与の理由となっています。『近世日本社会と宋学』（初版 1985 年）、『東アジアの王権と思想』（初版 1997 年）、『明治革命・性・文明——政治思想史の冒険』（2021 年）などの著書で展開されたそのご研究は、社会全体における意識の広がりの中に諸思想を位置づけながら、江戸時代における思想史の展開と、明治時代の思想への連続・非連続のありさまとを明らかにした業績として、研究動向に大きな影響を与えてきました。東アジア諸地域との比較や、ジェンダー論といった新たな視角も、注目すべき特色です。英語・韓国語・漢語に訳されたご著書・ご論文も多く、日本だけでなく世界中の研究者にとって必読の先行研究となっています。

本学においては、『日本政治思想史[十七～十九世紀]』（2010 年）にまとめられた法学部講義を長らく担当し、学生・院生の教育にあたられるとともに、評議員、法学部長、副学長、理事を歴任されました。ご退職後は法政大学法学部教授（2010 年～2017 年）、日本学士院会員（2018 年 12 月～）も務められています。

文化功労者としてのご顕彰を心よりお慶び申し上げますとともに、益々のご健勝とご活躍を祈念いたします。

（大学院法学政治学研究科・法学部 荻部 直）